

# お薬のしおり

## コンタクトレンズと眼障害 No.146 (H26.4)

東京医科大学病院 薬剤部

みなさんの中に、コンタクトレンズをお使いの方がいると思います。コンタクトレンズを使用している人口は、全国で1,500万~1,800万人と言われ、国民の10人に1人がコンタクトレンズを使用していることが推測されます。最近では種類も豊富で便利ですが、一方でコンタクトレンズによる眼の障害が増え、コンタクトレンズ使用者の10人に1人に眼の障害が生じていると言われています。今回は、コンタクトレンズによる眼の障害とその治療や予防方法などについてご紹介したいと思います。

コンタクトレンズは「医療機器」であるため、必ず医師が処方します。医師による検査や診察で眼の形状や健康状態を確認し、それぞれの人に合わせたコンタクトレンズが処方されます。コンタクトレンズは眼に直接入れて、角膜の上に乗せますが、その角膜を覆っているのが涙です。角膜はこの涙液を介して空気中の酸素を取り入れることにより呼吸しています。眼を閉じているときには、眼を開いているときに比べ酸素の供給量は、3分の1に減少しており、眼は酸素不足の状態となります。

では、コンタクトレンズによる眼の障害にはどのようなものがあるのでしょうか？具体的な症状としては、ゴロゴロやチクチクなど異物感、充血、痛み、涙が出る、眼が乾く、かゆみ、目ヤニが多い、眼がしみるなどが挙げられます。コンタクトレンズ装用による主な眼障害には、角膜の炎症などが多く挙げられ、その中でも軽症の障害として点状表層角膜症があります。この点状表層角膜症は、角膜の一番上にある上皮層の細胞が、数個から数10個単位で脱落してしまって、角膜に「スリキズ」ができていような状態です。原因は酸素不足やレンズと角膜の摩擦で、ほとんどの場合、自覚症状はありませんが、悪化すると角膜上皮の深い層まで脱落する「角膜上皮びらん」、「角膜浸潤」、「角膜潰瘍」などの感染症を引き起こすこともあります。この他にも、結膜炎やドライアイなど様々な眼障害があります。このような眼障害が起き



てしまった場合、コンタクトレンズの装用を中止し、必要に応じて、角膜を保護するような涙の成分に近い点眼薬、抗菌薬、炎症による痛みを抑える点眼薬などを使用して治療します。

＜当院でよく使用される点眼薬＞

・ヒアレイン：ヒアルロン酸ナトリウムを成分とし、角膜を保護し、ドライアイなどを防ぐ

・マイティア：涙とほぼ同じ成分で、涙液の補充として使用する

・ジクロード、ニフラン、プロナック：非ステロイド性抗炎症剤の成分を含み、炎症に対する痛みなどの対症療法として使用する

・フルメトロン、リンデロン：ステロイドの成分を含み、炎症を抑える

・クラビット、ベストロン、オゼックス：各抗生物質を成分とし、感染症の治療に使用する

コンタクトレンズによる眼障害を予防するには何をしたら良いのでしょうか？ハードやソフトなど様々なタイプがあり、色々なレンズケア用品が販売されています。自分の使用しているコンタクトレンズに合ったレンズケア用品を選択し、正しくレンズケアを行うことが重要です。また、コンタクト装用時に点眼薬を使用する場合には注意が必要です。市販されている点眼薬には、コンタクトレンズを装用したまま使用できるものと、コンタクトレンズを外してから使用するものがあります。これは、コンタクトレンズの材質によって、点眼薬の成分を吸着してしまったり、レンズ自体を傷つけてしまったりすることがあるからです。各点眼薬の製品のパッケージや添付文書に、コンタクトレンズ装用に関する注意喚起の記載があるかどうかをよく確認して使用しましょう。医師から処方された点眼薬を使用する場合には医師の指示に従って、決められた回数を使用してください。

コンタクトレンズによる眼の障害は、軽症の段階では自覚症状があまりないため、症状が出た場合には既に重症化していることも少なくありません。軽症の段階で適切な対応をすることが早い回復にもつながります。そして、症状がなくても定期検査を受け、障害を早期に見つけるだけではなく、コンタクトレンズの汚れ、変形、ドライアイの状態など眼障害の原因となるトラブルを見つけ、その対処を講じることが重要です。コンタクトレンズや点眼薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、かかりつけの医師もしくは薬剤師までご相談ください。

